



東日本大震災の教訓を未来に 伝え、防災・減災に貢献する人材を 育てる学校づくり



宮城県 多賀城高等学校
教頭 小野 敬弘

1 はじめに

宮城県多賀城高等学校は、東日本大震災を受け、2016年から全国で2例目となる防災系の学科「災害科学科」を開設しました。被災地にある学校として、防災・減災の観点から今後の社会を力強く生き抜く力を育み、防災教育を県内外に広げるパイロットスクールとしての役割を担っています。普通科にも防災系科目を配置し、防災・減災に関する様々なプログラムを学校の教育活動の中で実践し、人の命とくらしを守る人材育成を図ることを目指しています。

2 津波標識設置活動

東日本大震災の翌年から津波痕跡を調査し、市内の電柱にマーキングを行い、2013年8月から津波標識の設置を始めました。これまでに市内約120箇所に設置。昨年は風化を危惧する地域住民から新たに設置依頼を受けるなど、市民からも認知された伝承活動となっています。最近では標識の劣化もみられるため、生徒会役員やボランティア



津波標識設置活動

同好会の生徒の手でメンテナンスや張り替え作業を行っています。

3 被災地域の「まち歩き案内活動」

多賀城市の史跡に指定されている「末の松山」、ここは小高い丘になっており約1,000年前に発生した貞観津波の際も被災しなかったといわれ、百人一首にも詠まれています。3.11津波の際も被災を逃れ、多数の近隣住民がここに避難しました。これらの場所を本校で設置した津波標識を辿りながら巡る「まち歩き案内」活動を行っています。生徒が作成した「まち歩きマップ」を参加者に配付し、生徒が語り部となって



津波伝承まち歩き案内活動



津波伝承まち歩きマップ

多賀城の震災被害について説明します。また、この「まち歩き」コースは、「震災伝承ネットワーク協議会」から「3.11 伝承ロード震災伝承施設」としても登録されており、外国の方を含めこれまでに延べ2,000人以上の方々を案内しています。



災害科学科のフィールドワーク

4 ボランティア活動

災害被災地へ向けた募金活動等は、生徒会やボランティア同好会の生徒が積極的に行っています。被災地での支援を行う災害ボランティアや震災追悼行事、復興住宅での被災者交流、地域の催しなど数多くのボランティア活動に参加しています。



災害募金活動

5 東日本大震災メモリアルday

本校主催の行事で、全国から毎年約10都道府県の高校生と多賀城市内の中学校を招待

し、大震災の犠牲者慰霊とその経験と教訓を後世に継承することを目的に2016年から行っています。「みやぎ防災ジュニアリーダー」の養成講座も兼ねて開催しており、交流行事をはじめ、オリジナルDIG（災害図上訓練）やHUG（避難所運営ゲーム）等の演習、課題研究の発表を行い、防災に関する知識・知見の習得を目指しています。

6 災害科学科設置

大震災から学んだ教訓を確実に次世代へ伝承するとともに、将来国内外で発生する災害から多くの命と暮らしを守ることができる人材育成を目的に、2016年4月に「災害科学科」が設置されました。災害を科学的に捉えるカリキュラムを編成し、地球的な自然事象はどのような災害を生むのか、専門家を招いての授業やフィールドワークを通じた探究的な学びを課題研究等にまとめ、その成果を各種学会やシンポジウムなどで数多く発表しています。

7 今後の展望

これらの教育活動や各種取組は、学校と地域住民、地域で事業を営む方々との連携を強め、生徒自身が地域から必要とされている存在であること、社会の一員であることを認識できる絶好の教育機会となっています。そして、地域と力を合わせ震災の伝承を続けることは、多賀城市民の防災意識の向上や、災害に強い安心・安全な街づくりに繋がっています。将来を担う高校生が、東日本大震災や様々な災害について知り、学び、たくさんの方々に伝えるだけでなく、本校で学んだ生徒が、防災・減災に関わる様々な分野で活躍・貢献し明日の国土を支える人材となってくれることを目指しています。